

国際歯科保健医療開発における「場」の活用

中 村 修 一

Developmental Stage of International Dental Health

Shuichi Nakamura

はじめに

国際協力の基本理念は国際人道主義に基づく自立支援である。支援には災害や紛争地域に対する緊急援助と途上国が貧困より脱出するための開発援助がある。支援は社会の構成要素全般に渡るが、生命と健康に関わる国際保健（International Health）領域は範囲が広い¹⁾。自立型保健開発は基本的に人の保健行動の変化を必要とするため解決への道は困難で遠い。筆者はネパールにおいて国際歯科保健医療協力に取り組み今年で20年を迎える。歯科保健開発を通して経験した「場」の活用について報告する。

途上国での歯科保健医療開発

1. 歯科保健開発の条件：開発事業を遂行するには、対象の国やフィールドの把握が必要である。保健医療活動の目標設定には、1) 口腔疾患罹患状況や保健医療制度、歯科医師など医療スタッフの就労状況や教育システム、2) 住民の保健行動、3) 社会構造や文化、4) 国の経済状況や政治情勢、5) 行政システムと実行能力などの情報を調べる

必要がある。

2. 歯科保健医療開発の主体：協力を実行するにはどのような主体で行うで計画が左右される。政府開発援助であるODA（Official Development Assistance）は現地政府の援助要請により展開され、民間開発援助であるNGO（Non Governmental Organization）はボランティアで展開されるが、両者には特徴があり違いもある。活動母体により、開発目標、資金規模、継続性などが異なってくる。筆者らはNGOとして事業を展開した。資金や人材確保や現地政府との交渉などで些か不自由な面もあったが、自由で迅速な活動、事業の変更、追加等が容易に展開できほぼ満足な活動ができた。

3. 歯科保健医療協力の特徴：1) ネパールのフィールドに実際に立ってみると歯科医療に対する住民ニーズは高く、歯科保健に対するニーズは低い。2) しかし、歯科保健の特徴としてブラッシングやフッ素洗口などのプロジェクトは運用も容易で明確な効果が期待できる優れた公衆衛生的手段である。問題は住民参加をいかに得るかが大切である²⁾。

以上、途上国での歯科保健プロジェクトの条件を述べた。これらの条件から実施可能な因子を選択することから国際貢献は始まる。

【著者連絡先】

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1
九州歯科大学国際交流・国際協力室
中村修一
TEL&FAX：093-583-6132

ネパールでの歯科保健医療開発

1. 活動の概要：ネパールでのプロジェクトは1989年から始まった。その後毎年ミッションを派

遣し今日に至っている。図-1にプロジェクトの年次推移を示す。ミッション終了後毎回評価作業を行い、次のミッションのプロジェクトを策定した。その結果、今日まで15のプロジェクトを展開したが、この内11のプロジェクトは継続しているが、巡回歯科保健はマンパワー不足で中止、トイレプロジェクトは失敗、砂糖の制限プロジェクト³⁾、歯の健康大会は口腔保健専門家の養成プロジェクトに吸収し形を変え実行している。

2. プロジェクト4つのステップ：ネパールでの15のプロジェクトは19年間で大きく4つのステップを経由して今日に至っている。第1ステップは調査と歯科診療充実期である。国際協力の経験も無く、情報も乏しいなかで始めたのでフィールド調査を行い情報収集につとめた。歯科診療は慎重にシステム開発を行った。歯科診療システムが軌道に乗った5年目（1994年）から第2ステップに入った。学校歯科保健、フッ素洗口、口腔保健専門家の養成⁴⁾、トイレプロジェクトなどを導入した。第3ステップは口腔保健専門家の養成プロジェクト期である。主に村の小学校の先生のボランティア参加でプロジェクトを発展させた⁵⁾。第4ステップは地域歯科保健開発期である、第3ステップまでにテチョー村とダパケル村で開発した保健システムを統合し、ダパケル村とチャバガオン村で村単位の歯科保健事業として展開した。事業の主体はネパール人口腔保健専門家である。この経験を基準化し21次隊（2007. 12～2008. 1）でラリトプール郡の4つの村で新規地域歯科保健開発を行った。

3. 現地の活動3つの変容：ネパールでの歯科保健医療プロジェクトは時間とともに4つのステップを経たが、プロジェクトは活動内容、活動主体、活動対象とそれぞれ3つの変容を経て今日に至っている。1) 活動内容の変容：1989年の活動の初期から5年間は住民ニーズに基づいた歯科診療を行った。しかし診療活動は効果が限局的でテチョー村ではある程度成果を得られたが隣接の村の診療要請には応えることが出来ず困惑した。そこで1994年からヘルスケアを導入した。学校歯科

保健プロジェクト、フッ素洗口プロジェクト、口腔保健専門家の養成プロジェクトの3つの事業を併行して実施した。また、必要に応じ巡回歯科保健、トイレプロジェクト、12歳児検診充填プロジェクト、歯の健康大会、砂糖の制限プロジェクト、母子保健プロジェクトなどを開発した。2) 活動主体の変容：活動初期のプロジェクトは日本人隊員が主体となって村人にメディカルケアやヘルスケアを実施した。口腔保健専門家の養成プロジェクト導入の結果、活動の主体が変わった。口腔保健専門家養成コースの受講生は村の小学校の先生が多く、受講後は口腔保健専門家となって村の各小学校で歯科保健を実施した。活動の主体が日本人から徐々にネパール人に移行して行った。現在は経験を重ねた専門家によりネパール人を対象とした口腔保健専門家の養成プロジェクトが実行されている。自立型歯科保健の確立である。また、口腔保健専門家の養成プロジェクトにはマザーボランティアグループの自発的参加があり特別にカリキュラムを編成し対応した、養成コースを終了したマザーグループは現在、母子保健や母子歯科保健プロジェクトに参画している。3) 活動対象の変容：プロジェクト初期はメディカルケアもヘルスケアも直接日本人隊員がネパール人を対象に活動を行っていたが、学校歯科保健導入やマザーボランティアグループの参画により、集団を対象とする活動に発展し、現在は新規の村を対象としてヘルスケアを実施する地域歯科保健開発に発展した。

4. 歯科保健医療の展開における「場」の活用

20年目を迎えるネパールでの歯科保健医療協力活動は上記の通り4つのステップと3つの変容を経て今日に至った。図-1に示すように15のプロジェクトは住民のニーズやミッション毎の評価作業や現場の閃きや気づきにより取り入れられ、導入時期に適したプロジェクトであった。これらのプロジェクトを俯瞰したものを図-2に示す。

学校歯科保健、フッ素洗口、12歳児検診充填、口腔保健専門家の養成、歯の健康大会はプロジェクト別に担当チームを編成し独立して事業を進め

2000.

4) 中村修一：途上国でのヘルスプロモーション：能動因子と受動因子－ネパールでの歯科保健医療協力18年の経験から－, ヘルサイエンス・ヘルスケア 6(1), 19-22, 2006.

5) 中村修一, 安部一紀：途上国の地域歯科保健開発パイロットスタディー－ネパールにおける16年間の活動－, ヘルサイエンス・ヘルスケア, 4 (1), 13-18, 2004.

Developmental Stage of International Dental Health

Shuichi Nakamura

(Office of International Dental Health, Kyushu Dental College)

This project has been started since 1989 with successful completion of the 21st mission in Nepal. The result of this project; 14,307 patients had dental treatment while 76,814 persons could receive health care. The total number of Japanese participants was 607.

1. This project has 4 different steps.

The first step is Dental Treatment and Survey. The second step is Health Care. The third step is Oral Health Training. The fourth step is the development of Community Dental Health.

2. Three changes in Nepal activity.

a) The project content was changed

The project changed from the medical care to the health care. The health care consisted of School Dental health, Fluoride mouth rinse, Oral Health Training, Field and home visit, 12 years old children dental care, organizing Dental festival and awareness program for the villagers, Sugar control program and Mother and Child health program.

b) Initially, this project was carried out by Japanese members for Nepalese people.

After the start of Oral health training program, Nepalese could run this project for the Nepalese people. This has lead to self-reliance in them.

c) Change of Object: At initial stage, the medical and health care project was performed out by the Japanese members for the Nepalese people. With the inclusion of various groups like School dental health and Mother child health program, the object has been changed into group activities from individuality.

At present with the enrolment of new villages has made development of Community dental health promotion, thus changing the object into the community level,

3. Spread of Dental Health Care System

20 years of Dental cooperation and activities in Nepal included 4 steps with 3 changes. Programs like

School Dental health, Fluoride mouth rinse, Oral Health Training, Field and home visit, 12 years old children dental care, organizing Dental festival and awareness program for the villagers, Sugar control program and Mother and Child health program which were able to carry all activities converged at a place in the long run. From now onwards, programs like School dental health, Fluoride mouth rinse, Oral health training, 12 years old children dental care and Dental festival would be carried out in a single School Stage. Similarly, Mother and child health, Mother and child dental health, toilet construction project, Field and home visit, Dental awareness program for villagers, Sugar control program converged into a Family Stage.

In Thecho and Dhapakhel village, School stage and Family stage finally combined to form the Community Dental Health Developing Stage. From now onwards, this Community dental health program is being carried out in 6 villages like Sunakothi, Chapagaon, Lele, Chhampi, Devichour and Tikabhairav of Lalitpur district. Performing health care activities lead to the development of health care system where various activities converged into a single stage in the long run. With this, we want to report the development of community dental health system.

Health Science and Health Care 7 (2) : 61 – 65, 2007